



山陽スピリット ニュース No.20

2020(令和2)年3月1日

発行：学校法人 山陽学園 広報・山陽スピリット推進室

渋沢栄一

一山陽学園へのメッセージ

山陽女子中学校・高等学校

教諭 吉川 恵

昨年4月に1万円、5千円、千円の紙幣が2024年度上半期から刷新されることが発表されました。1万円札には、日本の資本主義の父とされる実業家の渋沢栄一の肖像画が用いられることが決まりました。1万円札の肖像画の人物変更は1984年に聖徳太子から福沢諭吉になって以来、40年ぶりです。

そして昨年9月には2021年の大河ドラマが渋沢栄一を描く「青天を衝け」に決まりました。栄一を演じるのは、若手実力派俳優の吉沢亮さんです。今注目を集めている渋沢栄一は山陽学園に来校し、講演をした記録が残っています。実業家としてだけでなく、教育や福祉にも深くかかわり、社会全体の発展に大きく貢献した人物なのです。



近代日本人の肖像 渋沢栄一
国立国会図書館(2013)

渋沢栄一は1840(天保11)年に武蔵国(現在の埼玉県)で裕福な農家の長男として生まれました。幼いころから読書が好きで、中国の歴史書や思想書に親しみました。栄一の家は農業のほかに染料の藍の商売も営んでおり、13歳の時には父の代わりに藍の葉の買い付けができるほどの目利きとなり、商売の才能を見せます。聡明な少年は、江戸時代の身分社会ではどれほど理不尽な要求であっても代官の命令には逆らうことができないことを悔しく思い、幕府への反感

を募らせます。

この頃幕府は日米和親条約を結び、鎖国の時代が終わりました。幕府の弱体化とともに、日本国内は混乱していきます。そんな中で外国勢力を追い出し、天皇が日本を統治すべきだという「尊王攘夷」の考え方が広まります。幕府に不満を持っていた栄一もこうした考えの仲間と深くつきあうようになり、反乱を企てる危険人物とみなされるようになってしまいます。

ところがそんな時に徳川御三卿の一つである一橋家に仕官しないかという誘いを受けます。尊王攘夷派だった栄一ですが、当時の一橋家の主君である慶喜が身分にとらわれずに有能な人材を登用する人物であることに気づき、身を賭して仕える覚悟を持ちます。一橋家で働きを認められた栄一は1867(慶応3)年、将軍となった慶喜の弟・昭武についてフランスへ行くことを命じられます。フランスで銀行家が軍人と対等に話をしている様子を見た栄一は「商業が政治と対等につき合うことができ、はじめて国は豊かになる」と感じます。そこで鉄道敷設のような大きな事業を行うために必要な銀行のしくみを、実際の実務を見て真摯に学びました。栄一はヨーロッパの豊かさを目の当たりにして、日本が強化すべきものは軍隊ではなく、金融や会社の制度だと考えるようになります。そして栄一がフランスに滞在している間に、日本では大きく歴史が動きます。将軍慶喜が大政奉還を行い、政権は朝廷に返上されました。

その後1869(明治2)年、新政府の民部省(後の大蔵省)で実権を握っていた大隈重信は栄一を重要な役職に抜擢します。フランスで見聞を広めた栄一の才覚が新しい国の仕組みづくりに必要だと見込んだのです。旧幕臣であった栄一の重用に最初は不満の声があがりましたが、半年後には栄一の猛烈な仕事ぶりを誰もが認めるようになります。新政府で栄一が特に力を入れた仕事は銀行の設立と貨幣制度の整備でした。栄一は銀行に預けたお金は事業に投資され、その利益はお金を預けた大衆に還元されるという考えに魅力を感じ

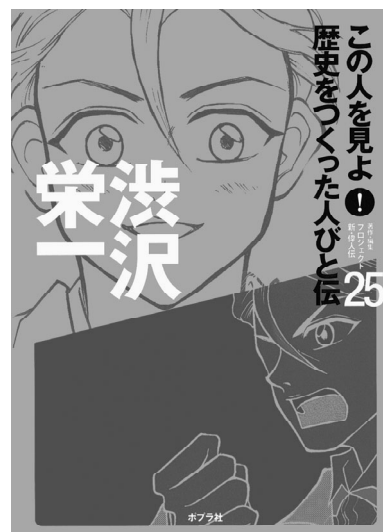
じていました。33歳で大蔵省の仕事を辞め、国立銀行として日本で最初に設立された第一国立銀行の総監役になり、実業家として活動し始めてからも、少数の人間が利益を独占するのではなく、国民全体を豊かにしなければならないという考えは変わりませんでした。栄一は銀行が集めたお金を使って産業を興し、利益をあげることで人々の役に立ちたいと考えていました。そして自ら紡績、保険、ガス、電力、海運、鉄道、煉瓦、ホテル、ビールなど様々な事業を立ち上げます。栄一が設立にかかわった会社の数は500以上といわれています。ワンマン経営をすることはなく、1つの会社の経営が安定すると有能な人に任せ、自分は次の事業の立ち上げをしていきました。たくさん設立した会社をまとめて、自分の名前を冠した巨大なグループ、財閥をつくることには興味がなかったのです。自分の一族だけが財を築くのではなく、富を求めることが人びとの利益につながるようにしなければならないと主張していました。

「道徳経済合一説」という理念を栄一は『論語と算盤』という著書で詳しく説いています。

栄一は実業家として忙しい日々を送る中でも東京養育院の院長の仕事を引き受けました。養育院は、身よりのない子どもや老人、病气やけがで働けなくなった人々のための施設です。栄一は事業によって得たお金は困っている人たちのために使われなければならないと考えました。養育院の院長の仕事は約60年にわたって続けました。

栄一が山陽高等女学校で「女子教育について」講演した内容が1911(明治44)年7月発行の『美さを』第48号に残されています。当時71歳だった栄一は講演の中で、「昔は商売人や女が国家のことを考えることは許されなかったが、これからは誰もが日本の将来のことを考え、支えていかなければならない」と説いています。「そのためには身分や男女の区別なく教育を受けることが必要である」とも話しています。この時の山陽高等女学校の校長は上代淑先生でした。上代淑先生と栄一が交わした話の内容は残っていませんが、人々の為に尽くし、日本の発展を願った二人の生き方には通じるものがあります。この講演で話していたとおり、栄一は商業に携わる者や女子に、もっと質の高い教育や倫理が必要であると唱え、商業教育や女性教育の発展にも深くかわりました。

激動の時代を生き抜いた栄一の生き方は、私たちに様々なことを教えてくれます。外国を敵対視していたこともあった栄一ですが、フランスへ行った時には偏見を持たず、学ぶべきところは貪欲に学ぼうとしました。そして実業家となつてからは自分の意見だけで事業を進めるのではなく、どんな人の意見にもしっかりと



『この人を見よ！歴史をつくった人びと伝 栄一』
著作・編集／プロジェクト新・偉人伝(ポプラ社刊)

耳を傾けました。一つの考えに固執せずに冷静に情勢を見極め、柔軟に考えを修正し、ベストな方策をとることができる人だったのです。また、栄一がつくった言葉に「士魂商才」という言葉があります。実業家はビジネスの成功だけでなく、忠義や徳といった道徳価値も大切にすべきだという意味です。自分の成功だけを求めるのではなく、常に社会の利益を考えようとする姿勢を感じさせられる言葉です。

渋沢栄一が今、注目を集めているのはその生き方や思想が見直されているからかもしれません。現代社会では物事を多角的にとらえ、主体的に考えて探究し問題解決していく力が求められています。渋沢栄一の人生は、そのような力を身につけるための秘訣を教えてください。栄一が約109年前に山陽高等女学校の生徒達に伝えたメッセージは、現代を生きる私たちの心にもまっすぐに届いてくるように感じます。

[参考文献と引用情報]

- ・『論語と算盤』渋沢栄一／角川ソフィア文庫(2008)
- ・『この人を見よ！歴史をつくった人びと伝 栄一』
著作・編集／プロジェクト新・偉人伝／ポプラ社刊(2010)
- ・『渋沢栄一「日本近代資本主義の父」の生涯』今井博昭／
幻冬舎新書(2019)
- ・「近代日本人の肖像 渋沢栄一」国立国会図書館(2013)
<https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/104.html>
(2020年2月12日閲覧)